



初雪

今日は予報通りに本当に雪が降っている。11月の初雪は54年ぶりということだから、実は私の子どもの頃にも降ったことになるのだが、自称28歳の私には記憶がない。

昨日から警戒されていたから、君たちも冬用のコートとかを用意したのだろうか。私は昨日のうちに冬用のコートを引っ張り出し、マフラーや手袋も用意しておいたので、早速役立てることができた。さすがに、これだけ寒いと、制服の下にセーターを着ただけでは厳しいのではないか。マフラーや手袋、コードなどをうまく活用して、体調管理に気をつけよう。

*

雪のイイところは、音がしないところだろう。「しんしんと」という副詞があるが、まさに「しんしんと」といった感じで雪は降る。ちなみに、この「しんしんと」を漢字にするとうなるか分かる？ 答えは「深々と」である。辞書には

「①（夜が更けたり雪が降ったりして）あたりが静まりかえる様子。②寒さが身にしみ通るように感じられる様子。」(三省堂『新明解国語辞典』)

と出てくる。ちなみにちなみに、「しんしんと」には、他に「津々と」と「森々と」と「駸々と」がこの辞書では登場する。それぞれどんな意味だか想像できるだろうか？

*

今年のスキー教室は大盛況で、残念ながらくじ引きを実施しなければならなくなってしまい、13Rでも4名の諸君が涙を飲んだのは残念であったが、10名以上がはずれてしまったクラスもあることを考えると、まあ運が

よかった方と言えるかも知れない（担任としては、こんなところで運を使ってしまってイイのかという危惧がないでもないが…笑）。全員参加させたいのは山々だが、雪稜会のコーチの数が決まると、一人のコーチが面倒を見ることができる人数を踏まえて、全体の募集人数が決まる。安全で、確実な指導をするためには、コーチ一人あたりの担当数をむやみに増やすことはできないのである。

私は今年は臨海教室を担当したが、今までの学年ではずっとスキー教室の担当で、何度も熊ノ湯のゲレンデに出かけているし、横手山頂上からの絶景も何度も見ている。晴れた日に、眼下に広がる（だって頂上から眺めだからね）雪山の美しさは、ぜひ全員に見てもらいたいと思うほどだ。

また、うんと寒い日には、ゴーグルについた雪の結晶を見たりすることもできる。リフトから見える、雪を載せた木々の美しさも筆舌に尽くしがたい。スキー教室には、そんな美しい自然との出会いも待っているのだから、ぜひ期待してほしいところだ。

一方、雪山の厳しさを体験する場面もあるかも知れない。かつて、某学校のスキー教室が吹雪に見舞われてしまい、山小屋まであとわずか20メートル程度だったにも関わらず、視界が効かないためその場でビバークすることに決め、結局凍死者を出してしまうという悲劇があったと聞いたことがある。それほど自然には厳しく恐ろしい一面もあるのである。ぜひ、雪稜会のコーチの指示をしっかりと守り、安全で楽しい、かつ美しい思い出をつくってほしいものである。